

ご質問

お名前 桜田りょうた

問1 あなたが最も解決する必要があると考える庄原の課題は何ですか。

少子高齢化が深刻な状況にあること、この問題がほとんどの課題を重層的かつ複雑化させています。本市では年間約 120 人が出生し約 700 人が死亡するという現状です。子育て世代が安心して働ける保育・教育環境を整備し、心のゆとりある世帯が増えないと子どもも増えていきません。一方高齢者は、地域で生活を持続する難しさがあります。人が減り、客足が減り、売れない。だから店を維持できない。維持しようにも後継者が不足している...消費者側も買う物が揃ってない。近くに買うところが無い。高齢で運転できないから、街まで移動できないなど悪循環は否めません。移動販売や食品の配達などの利用もさることながら、食だけでなく、医療、介護、福祉など暮らし続けることができる街にしていかないと、他の市町への流出を少しでも防いでいくことはできません。

問2 上記問1で答えた課題の解決に向けてどの様に取り組んでいきますか。

その為にも都市機能の不足と住宅政策を強化し、かつIターン、Uターンの人々への支援を強化するべきです。もっと言えば、本市企業に就職すると、優良で安価な家や土地を提供する、農林業や、製造業の体験ができる、または外部より本市に見合った地域再生マネージャー事業を行う企業に委託し、地域再生コンサルティングを行うなどできることはまだあると思っています。地域をコンパクト化し中心市街地とのネットワークを強化し、行く末は庄原市全体をコンパクト化していけば、無駄なく活気ある街ができると思います。少子高齢化は総合的かつ重点的な取り組みが必要で、様々な社会資本と行政の連携が重要です。課題解決のエンジンとなる行政組織も縦割りではなく専属で横断的な部門を設け、自治体DXやAI活用で充実した推進体制の整備が急務です。
--

問3 なぜ、市議会議員を志されたのかを教えてください。

前衆議院議員小島敏文氏の秘書として働き、直接的に政治活動を経験することができました。事務所が広島県第5選挙区で、尾道市、三原市、府中市、三次市、庄原市、世羅町、神石高原町をエリアとしており、各首長、議会議員、行政職員の方と接することが多く、本市以外の自治体の状況もつぶさに客観的に見ることができました。その中で、他の市町と比較して、本市の首長と議会の関係性における課題も見出すこともでき、より一層政治に対する思いも強くなりました。行政施策の条例制定を通じて、より良いまちづくりを推進していくことにより、市議会議員として地元の庄原市民の皆さんのお役に立ちたいとの思いが募り、決意した次第です。